

2GHz帯を対象とし、電波の有効利用及び災害対応を中心とした周波数の共用を前提とする。例えば、下表に示すような例が考えられる。

システム例	コンセプト	周波数共用の考え方	災害対応への有効性
STICS (総務省 研究開発施 策)※2	<ul style="list-style-type: none"> ・地上移動通信と衛星移動通信の周波数共用基盤技術の確立 ・地上系と衛星系の周波数の共用化により、周波数有効利用の促進と非常災害時通信の提供の同時実現が可能 	同一周波数帯で衛星系と地上系を同時運用(バンド全体をサブバンドに分割し、衛星ビーム毎に衛星系、地上系でサブバンドが重ならないように割当)	衛星回線を災害エリアの衛星ビームに重点的に配分
MSS/ATC (米国)※3	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星携帯電話をメインとして地上系を補完的に利用する方式 ・衛星の見通しエリアは衛星通信を利用。建物内、衛星信号のシャドウイングエリアは地上通信を利用 	衛星移動通信(MSS)に割り当てられた周波数を使用して地上系のシステムを展開し、MSSと同時運用(システムコンセプトであり、技術等は特定されていない)	従来の衛星通信システムに対し、追加的な通信手段を提供(システムコンセプトであり、技術等は特定されていない)
MSS/CGC (欧州)※4	<ul style="list-style-type: none"> ・移動衛星通信システムは、衛星との通信の所要品質が確保できない場所における利用可能性を改善するため、補完的な地上部分(CG C)を含むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・CGCが衛星通信システムに統合されており、衛星リソース及びネットワーク管理システムで制御されていれば、MSSに有害な干渉を与えない。 ・他のシステムは、MSSに対して有害な干渉を与えてはならないし、MSSからの有害な干渉に保護を要求できない。 	災害救援を目的の一つとしている

※1: 資料21-3において、「移動衛星通信システムを基本とし、可能な範囲で、移動衛星通信システムと同一周波数帯を共用する携帯電話システムを組み合わせたシステム(以下、「衛星・地上共用通信システム」という。)について検討を行う」としている。

※2: Satellite Terrestrial Integrated Mobile Communication System。資料19-5等に基づき記入

※3: Ancillary Terrestrial Components。資料19-5、FCC 03-15に基づき記入。ICO-1、TerreStar-1&2、Skyterra-1,2 & SAのサービスは未開始。

※4: Complementary Ground Components。2007/98/ECに基づき記入